



竹田市は、女性ならではの視点を生かして農業活性化策を探ろうと、女性農業者のネットワークを設立しました。

2020年5月11日付大分合同新聞13面

①竹田市が設立した女性農業者のネットワークの名称は？

たけたんあぐりネット

②このネットワークが設立された背景は？ 竹田市の担当者の思いは？

農業者の高齢化や担い手不足

が深刻なことが背景。

「女性の力が不可欠。能力を

発揮できる環境づくりを進める

必要がある」

③どのような活動が計画されていますか？ 三つ挙げてください。

1、市内外のイベントで販売ブース

を設置する。

2、農産品のインターネットを通じ

た販売や加工品の開発を手掛ける。

3、農業機械の操作や労働環境改善に向けた研修会を実施する。

④農業を活性化させるためには、どうすればいいと思いますか？ おうちの人や友達と話し合ってみましょう。

農業に女性の力

竹田で「あぐりネット」設立



女性農業者のネットワーク設立で行動範囲が広がることに期待している植木美和さん（竹田市久住町）

竹田市農政課によると、市の2018年農業産出額は221億8千万円。5年連続で県内18市町村でトップだった。半面、農業者の高齢化や担い手不足は深刻で、同課主査の吉野順子さんは「女性の力が不可欠。能力を発揮できる環境

【竹田】竹田市は本年度、女性ならではの視点を生かして農業活性化策を探ろうと、ネットワーク「たけたんあぐりネット」を設立した。メンバーは30〜70代の女性農業者10人。情報交換や研修会を実施し、農産加工など商品開発も目指す。

情報交換、商品開発へ

づくりを進める必要がある」と強調する。市内外のイベントで販売ブースを設置し、農産品のインターネットを通じた販売や加工品の開発も手掛ける予定。農業機械の操作や労働環境改善に向けた研修会も計画している。市が17年に実施した女性農業者向けのアンケートでは、回答者221人のうち約4分の1が女性ネットワークの設立を望んだ。メンバーで畜産農家の植木美和さん（39）は市内久住町久住は「家事と仕事で他の女性農業者となつた機会がほとんどなかった。行動範囲を広げ、積極的に活動したい」と話した。メンバーは随時募集している。問い合わせは、同課（☎0974・63・4805）。（原田宏一）